

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おんぶ			
○保護者評価実施期間	R7年 1月 11日		～	R7年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25世帯	(回答者数)	25世帯
○従業者評価実施期間	R7年 1月 11日		～	R7年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	非常勤も含め、多職種がいる為、より専門性のある療育を行うことが出来ている。	児童の課題点において多職種も交えての意見交換を行い療育に活用している。また、非常勤の言語聴覚士が来られる時には、言語面の課題や保護者様からのご相談があった児童を優先して療育を行う等、ニーズに合った療育を行っている。	活動実施前に、児童の最近の様子や前回の療育内容等を情報共有することで、現在の児童の状況にあった療育を実施出来る様にしていける必要がある。
2	個別や集団で、プログラムを立てて実施し、その日のフィードバックも実施している。	午前の個別活動後、記録入力後には活動時の児童の様子や課題点等をフィードバックし、療育時の支援方法など次回の療育時のプログラム立案に活かしている。	児童によっては固定した療育内容も状況に応じて必要となってくる。同じ環境下で行えるよう設定し、話や文面だけでなく動画等を取ることでより再現性の高い療育を行っていきようにする。
3	ご家族だけでなく、園等とも児童の情報を共有する機会を作れており、児童にとってより良い療育を実施することが出来ている。	園には月に一回、活動報告書という形で療育での様子をお伝えしている。また、送迎の際には担任の先生と日頃の様子をお話することで情報共有を行えている。	園だけでなく、併用している事業所との療育時の様子を意見交換し、主となる療育時の関わり合い方や課題点へのアプローチを共通して実施出来る様にしていける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用数に対してのスペースが限られている。	活動時や自由遊びでは、注意力や行動面の影響から危険リスクが高い。また、視界に入る場所にスイングのフレームやマットなどがあり、特に静の活動の際には集中力の持続に影響が出ている。	現在パーティションを使って区切っているが状況によっては活動に影響が出ている。活動内容や設定によっては、野外での活動や公共施設を利用し療育を行っていく必要がある。
2	多忙なご家族も多く、定期的な面談が実施出来ていない。	計画書の作成時等はお話をする機会があるが、職員の配置やその時の状況によって、保護者様との定期的な面談は行えておらず、子供の現状やニーズなどを把握しきれていないことがある。	ご家族の状況を確認しながら面談日をあらかじめ設定しておくようにする。また面談が難しい場合は連絡アプリを使用し、日頃の様子や困り事などをこまめに送って頂くよう保護者の方に説明をし促していく必要がある。
3	地域の方々や子供たちと活動の中で接する機会がない。	コロナ禍の頃からの影響もあり、活動の中で地域の方との関わり合いは少ない。現在も感染症等の問題があり実施することは出来ていない。	インクルージョンという点で、今後児童たちがより過ごしやすい環境づくりが出来よう、事業所主体で地域の方々や他事業所との関わり合いを図ったイベントを実施したり、地元のイベントに活動として参加する等を積極的に実施して行くことを考えていく。